

平成26年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	医学研究科 (人間健康科学 系専攻)	カテゴリー	環境・生命・医療科 目群	横断 区分	文理横断型		
授業科目名 (英訳)	次世代医療を語る		講義担当者 所属・氏名	<ul style="list-style-type: none"> ・医学研究科人間健康科学系専攻: 高桑徹也、椎名 毅、杉本直三、細田公則、山田重人、青山朋樹、酒井晃二 ・医学部附属病院: 前川 平、門脇則光、藤林俊介 ・細胞-物質統合拠点: 仙石慎太郎 ・再生医学研究所: 岩田博夫、山本雅哉 ・学際融合教育研究センター: 宮野公樹 		開講場所	病院地区 (人間健康科学系専攻) 171号室(予定)		
配当 学年	修士 博士後期 専門職	単位 数	2単位	開講 期	後期	曜 時 限	水5限 (16:30-18:00)	授業 形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>医療は、さまざまな分野からのアプローチにより絶えず動的に変化し続けています。その動向を機敏にとらえて行くことは「よき医療人」を育成する本専攻の重大な使命です。このシリーズでは、理工学、細胞生物学、地域・社会学といった分野からの次世代の医療に対する取り組みを、その分野の専門家に紹介していただき、医療の動向を議論したいと思います。</p> <p>【研究科横断型教育の概要・目的】 次世代の医療は、医学研究科だけでなく、さまざまな分野の学生が担って行く可能性がある。今回は、その代表として理工学、細胞生物学、地域・社会学からのアプローチを取り上げる。本プログラムを聴講した様々な分野の学生が、次世代の医療に繋がるヒントを得て、思いもかけない連携が生まれるかもしれない。それは、この上なく喜ばしいことである。</p>									
【授業計画と内容】									
理工学、細胞生物学、地域・社会学の3領域からの医療への取り組みを専門家に紹介していただき、討論をします。									
<p><次世代の生体情報取得機器開発></p> <p>10/1. 杉本 直三 (人間健康科学系専攻:教授) 画像処理・解析による診断と治療の支援</p> <p>10/8. 酒井 晃二 (人間健康科学系専攻:講師) 画像解析と診断との融合: MRI の例を中心に</p> <p>10/15. 椎名 毅 (人間健康科学系専攻:教授) 次世代の検査機器開発:超音波と光による生体機能・性状のイメージング</p> <p><次世代の生体医療材料・細胞治療></p> <p>10/22. 岩田 博夫 (再生医学研究所:教授) 人工材料への細胞の接着</p> <p>10/29. 山本 雅哉 (再生医学研究所:准教授) 新しい Drug delivery system の開発</p> <p>11/5. 門脇 則光 (医学部附属病院 血液・腫瘍内科:准教授) がん免疫療法としての細胞療法</p> <p>11/12. 前川 平 (医学部附属病院 輸血細胞治療部:教授) 京都大学における細胞治療・再生治療開発への挑戦</p>									

11/19. 藤林 俊介 (医学部附属病院 整形外科:講師)
生体活性チタンを用いた新しい骨関節疾患治療
11/26. 仙石 慎太郎 (細胞-物質統合拠点:准教授)
日本発・京大発の細胞治療・再生医療への挑戦

<医療の新しい社会還元の模索>

12/3. 細田 公則 (人間健康科学系専攻:教授)
糖尿病、肥満症、メタボリックシンドロームの次世代医療
12/10. 山田 重人 (人間健康科学系専攻:教授)
次世代の出生前診断
12/17. 青山 朋樹 (人間健康科学系専攻:准教授)
新しいセンシングデバイスと情報の融合によるセルフケア器機開発
1/7. 宮野 公樹 (学際融合教育研究推進センター:准教授)
新しい医療のための異分野融合ダイナミクス
1/14. 総括

[履修要件]

特に定めない

[成績評価の方法・基準]

出席 50%, レポート 50%

[教科書]

特に定めない

[参考書等]

特に定めない

[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]

問い合わせ先: 高桑徹也; tez@hs.med.kyoto-u.ac.jp